

## 第23回 奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター 研究発表会 要旨

### 【研究発表】

#### ①茶に残留する農薬一斉試験法の検討

保健研究センター 食品担当 島 友紀

茶は摘み取った生葉を加工し、製品になるまでに洗浄工程がなく、農薬が残留していれば湯や水により浸出したものをそのまま飲むこととなる可能性がある。よって、茶における農薬の残留実態を把握することは食の安全を確保するために重要である。

しかし、茶に含まれるカフェイン等の影響により、青果に比べて農薬の定量や分析機器の汚染の問題がある。本検討では緑茶中に残留する農薬分析の前処理方法の検討を行ったので報告する。

#### ②県内で発生した食中毒事例から検出されたウエルシュ菌の遺伝子解析について

保健研究センター 細菌担当 大西 航平

ウエルシュ菌食中毒は、エンテロトキシン産生性ウエルシュ菌が大量に増殖した食品を喫食することで発生する。当県において令和6年12月に平成25年以来となる本菌を原因とした食中毒が発生した。本事例で患者便、従事者便および保存検食から分離した計14株のウエルシュ菌について同一起源であることを確認するため、パルスフィールドゲル電気泳動による遺伝子解析を実施し、若干の知見が得られたので結果を報告する。

#### ③奈良県における病原体サーベイランスでのアデノウイルス14型の検出について

保健研究センター ウイルス・疫学情報担当 平井 志宜

アデノウイルスは、呼吸器疾患、眼疾患、感染性胃腸炎など様々な疾患の原因となるウイルスである。その中でもアデノウイルス14型(Ad14)は、稀に重症呼吸器疾患を引き起こすことが報告されており、また脳症などの重篤な疾患に関与する可能性も明らかとなっていることから、今後の動向が注視されている。今回、当センターで実施している病原体サーベイランスにおいて、初めてAd14を検出したため、その概要について報告する。

#### ④ベンゾ[a]ピレンの捕集、分析におけるふっ素樹脂フィルタ使用の検討

景観・環境総合センター 大気係 下田 明史

有害大気汚染物質のうち重金属類及びベンゾ[a]ピレン (BaP) の捕集には石英繊維製フィルタを用いているが、ふっ素樹脂フィルタ (PTFE) に比べ、重金属が含まれており代替可否を検討する必要がある。重金属類については先行研究によりPTFEへの代替可能性が示されており、同時捕集するBaPについても確認が必要となる。本研究では、PTFEを用いたBaPの捕集及び分析方法について検討を行ったので報告する。

#### ⑤大気粉じん中の六価クロム測定に係る検討

景観・環境総合センター 水質係 長岡 孝浩

人体に有害な六価クロムは化学的に不安定で、酸化還元反応により三価クロムと相互に変化するため大気粉じん中の六価クロム測定における精度確保を困難にしている。この反応は気温の影響を受けることが知られているが、その詳細は不明である。そこで、本検討では異なる温度条件下で六価クロムの添加回収試験を行い、酸化還元反応に対する温度の影響について考察を行ったので報告する。

### 【情報提供】

#### 奈良県気候変動適応センターの設置について

景観・環境総合センター 水質係 岡本 雄二

気候変動適応法第13条の規定に基づき、奈良県における気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行う拠点として「奈良県気候変動適応センター」が令和7年1月6日付けで奈良県景観・環境総合センターに設置されました。奈良県気候変動適応センターの概要と今後の活動方針等について紹介します。